

月・考査等	単元名	指導内容	評価規準			評価方法	補助教材	指導上の改善点など	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
			知識・技能【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【態】							
	学科名 産業科・商業科・海洋科 普通科	学年 1 2	教科 公民	科目 公共	単位数 2	教科書 詳述公共 (実教出版)						
	科目の目標	広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに、自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。										
4	1 公共の扉 1 社会を作る私たち	1 生涯における青年期の意義 2 青年期と自己形成の課題 3 職業生活と社会参加 4 現代社会と青年の生き方	・青年期の意義と特徴について理解している。 ・葛藤や欲求不満とその対処法、パーソナリティの理論や青年期の発達課題について理解している。	・人生における青年期の意義と特徴、望ましい自己のあり方と自己形成、国際社会に生きるために、日本人が身に付けるべき態度と能力について、準拠ノートの「TRY」を利用して、多面的に考察し、適切に表現している。 ・よく生きること、幸福に生きることについて、人間を尊重することがどういふことであるのかについて、準拠ノートの「TRY」を利用して、多面的に考察し、適切に表現している。	・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。	活動の様子を観察、レポート、口頭発表など	準拠演習ノート			○	◎	
5	2 人間としてよく生きる	1 ギリシアの思想 2 宗教の教え 3 人間の尊重 4 人間の自由と尊厳 5 個人と社会 6 主体性の確立 7・8 他社の尊重／公正な社会	・ソクラテスが唱えた、「よく生きる」ことが何であるかを理解している。 ・よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	・よく生きること、幸福に生きることについて、人間を尊重することがどういふことであるのかについて、準拠ノートの「TRY」を利用して、多面的に考察し、適切に表現している。	・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、公共的な空間における人間としてのあり方生き方についての自覚を深めようとしている。	活動の様子を観察、レポート、口頭発表など	準拠演習ノート			○		
中間考査												
	3 民主社会の倫理	1・2 人間の尊厳と平等／自由・権利と責任・義務	・個人の自由・権利が認められるには、他者の自由・権利との調整が求められることについて理解している。	・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。	・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、人間の尊厳と平等、個人の尊重といった公共的な空間における基本的な原理について理解しようとしている。	活動の様子を観察、レポート、口頭発表など	準拠演習ノート				○	
6	4 民主国家における基本原理	1 人権保障の発展と民主政治の成立① 2 人権保障の発展と民主政治の成立② 2 国民主権と民主政治の発展	・政治と国家が何であるかを理解している。 ・民主政治の歴史的な発展と社会契約論の考え方について理解している。 ・法の支配の考え方と基本的人権の歴史的な発展、立憲主義の考え方について理解している。	・準拠ノートを通して、アメリカ独立宣言で示されている権利を読み取り、日本国憲法との関連について多面的に考察している。		活動の様子を観察、レポート、口頭発表など	準拠演習ノート			◎		
期末考査												
7	2 よりよい社会の形成に参加する私たち 1 日本国憲法の基本的性格	1 日本国憲法の成立 2 平和主義とわが国の安全① 2 平和主義とわが国の安全② 3 基本的人権の保障① 3 基本的人権の保障② 3 基本的人権の保障③ 4 人権の広がり	・二つの憲法の原理と相違点について理解している。 ・憲法の最高法規性と憲法改正の手続きについて理解している。 ・p.77のCheckを通して、明治憲法下の政治機構と日本国憲法下の政治機構の相違点を適切に読み取っている。	・準拠ノートを通して、日本国憲法と大日本帝国憲法の相違点を読み取り、憲法改正の手續きについて多面的に考察している。 ・憲法の意義について、準拠ノートを利用して、多面的に考察し、適切に表現している。	・憲法について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	活動の様子を観察、レポート、口頭発表など	準拠演習ノート			◎	○	
8												
課題テ												
9	2 日本の政治機構と政治参加	1 政治機構と国民生活① 1 政治機構と国民生活② 2 人権保障と裁判所 3 地方自治 4 選挙と政党 5 政治参加と世論	・国会の役割と権限について理解している。 ・議院内閣制のしくみや内閣の権限について理解している。 ・官主導社会の特徴と課題、その転換に向けたさまざまな改革について理解している。	・準拠ノートを通して、議員立法と政府立法に関する情報を読み取り、その課題について多面的に考察している。 ・内閣総理大臣の権限について、準拠ノートを利用して、協働的に考察し、適切に表現している。	・日本の政治機構について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	活動の様子を観察、レポート、口頭発表など	準拠演習ノート			◎	○	
10	3 現代の経済社会	1 経済社会の形成と変容 2 市場のしくみ 3 現代の企業 4 経済成長と景気変動 5 金融機関の働き① 5 金融機関の働き②	・価格をシグナルとして需要と供給の変化が図形的にどのように変化するかを理解し、資源の効率的な配分をもたらす市場の機能について理解している。	・準拠ノートを利用して、寡占市場、独占市場、外部不経済などの市場の限界について、具体的な事例も想起しながら考察している。	・市場メカニズムの働きや市場の限界について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	活動の様子を観察、レポート、口頭発表など	準拠演習ノート				○	
中間考査												
	4 経済活動のあり方と国民福祉	6 政府の役割と財政・租税① 6 政府の役割と財政・租税② 1 日本経済の歩みと近年の課題① 1 日本経済の歩みと近年の課題② 2 中小企業と農業 3 公害防止と環境保全 4 消費者問題 5 労働問題と雇用① 5 労働問題と雇用② 6 社会保障①、②	・消費者保護基本法から消費者基本法にいたる消費者行政の内容を知り、求められる消費者像の変遷について理解している。 ・契約の効力が発生する要件や、消費者契約法に定められている契約取り消しの意義などについて理解している。	・消費社会の拡大や過度な宣伝等について問いを見出し、消費者主権や消費者の権利の観点などから協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。	・消費者の自立と自己責任について関心を深め、消費者の権利と責任に関する課題を意欲的に解決しようとしている。	活動の様子を観察、レポート、口頭発表など	準拠演習ノート				◎	
11												
期末考査												
12	5 国際政治の動向と課題	1 国際社会における政治と法 2 国家安全保障と国際連合 3 冷戦終結後の国際政治 4 軍備競争と軍備縮小 5 異なる人種・民族との共存 6 国際平和と日本	・勢力均衡と集団的自衛権の類似点を適切に読み取っている。 ・国連の組織と活動について理解している。 ・安全保障理事会の機能について理解している。また、安保理改革として求められている内容を理解している。	・国際連合が抱えている課題について、採決や財政の観点などから協働的に考察し、それらを適切に表現している。 ・準拠ノートを活用して、安保理改革の是非について協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。	・国際連合の専門機関が取り扱っている人権や社会、経済や環境問題に関する行動について主体的に追究して、国際的な課題を意欲的に解決しようとしている。	活動の様子を観察、レポート、口頭発表など	準拠演習ノート			○	◎	
1												
2	6 国際経済の動向と課題	1 国際経済のしくみ 2 国際経済体制の変化① 2 国際経済体制の変化② 3 経済のグローバル化と金融危機 4 地域経済統合と新興国①	・自由貿易のメリットを、比較生産費説をもとに理解している。 ・円高や円安が日本経済に与える影響について、理解している。	自由貿易のメリットとデメリットや、望ましい貿易ルールについて、準拠ノートを利用して、協働的に考察し、それらを適切に表現している。	・自由貿易を推進するメリットと、近年先進国が保護貿易的な動きを見せていることについて主体的に探究して、望ましい貿易のあり方を意欲的に探究しようとしている。	活動の様子を観察、レポート、口頭発表など	準拠演習ノート			◎		
学年末考査												
3	5 ODAと経済協力	1 地域経済統合と新興国② 5 ODAと経済協力	・ODAからSDGsにつながる援助と開発の過程について理解している。	・日本のODAの特徴と課題はどのようなものか、資金の用途や貸与方式などの観点から協働的に考察し、適切に表現している。	・国際社会における貧困と格差の解消について主体的に追究して、JICAによる支援活動などについても興味を持ち、それらの課題を意欲的に解決しようとしている。							